

佳作

## 人生のターニングポイント

埼玉県さいたま市立土合中学校三年 長田 睦月

感動。私は十四年という短い人生において何度も経験した。その中でも一つ、印象深い出来事がある。それは、私の中で大きなターニングポイントとなり、将来の夢も与えてくれた、とても大切なものだ。

今から三年前、私が小学校六年生のときの出来事だ。修学旅行で日光に行き、二日目のこと。日光東照宮に来ている外国人観光客の方に英語で話しかけサインをもらうというミッションがあった。事前学習で先生から伝えられた時は本当に驚いたのを覚えている。その当時は、英語なんてあいさつ程度しかできない。ましてや外国の方と話したことなんてない。はじめて会った人と、英語で会話をするなんて無理、絶対にできない、と強く思っていた。修学旅行のしおりには二つのパターンの例文があった。どちらとも英語で書いてあり、何も読むことができなかった。

った。そのため英語が得意な父に聞き、読み方と意味を教えてもらった。そして、世界地図もコピーをしてそれを外国人観光客の方に見せて、どこの国から訪れたのかを分かるようにした。修学旅行の日まで、たくさん英語の練習をした。まだ多くの不安も残る中、修学旅行の日がだんだん近づき、ついに出発当日。私は家を出た。

とうとう二日目になった。外国人観光客の方にインタビューをするミッションの日だ。東照宮に着き、班行動の時がやってきた。何度も練習した、世界地図だってある、まだ大きな不安はあったが、やるしかないという覚悟を決めて外国の方へと近寄っていった。足も手も、声までも震えた。怖い。怖い。でもあんなに練習した。大丈夫。そう自分に言い聞かせ話し始めた。インタビューを終えた時、私は安堵とともに大きな衝撃を受けた。外国の方とも言葉は通じるんだ、怖がる必要なんてなかったんだと。それを知った私は物怖じせず多くの人にインタビューをした。国の名前が聞きとれなかった時は世界地図を用いた。アメリカ、イギリス、フィンランド、ドイツ、オランダ、イタリアなど、とても多くの人と関わることができた。特に、ブラジルから来ていた方との

印象は大きい。ブラジルと聞き、コーヒー？サンバ？とジェスチャーもまじえたずねたところ、とても嬉しそうにイエス！と答えて下さった。一緒に写真も撮った。本当に本当に楽しかった。

修学旅行の一番の思い出はと聞かれたら、迷うことなくこの出来事を挙げるだろう。そしてこの出来事があり、私は英語の先生になろうと強く思った。生まれた場所も育った環境も、言語も文化も違う相手と繋がることの感動を味わい、この感動をたくさんの人に伝えたいと思ったのだ。外国人、日本人、その間にある壁は大きいかもしれない。だが、それを英語という全世界共通のツールで少しでも低くしたい。外国人も同じ人。互いを尊重し歩み寄る。それを大切にしようと思う。そして私自身、この小さいようでとても大きな出来事を、感動を多くの人に伝えていきたい。